

## ■子供たちの宗教教育

マッサ・マリッティマの小・中学校の教育プログラムの中には、宗教教育がある。ヨーロッパの他の国では複数の宗教教育を行うところもあるようであるが、歴史に深くカトリックが根付いたイタリアでは、いまだカトリック・キリスト教のみにとどまっているのが現状のようである。ただし、この授業は選択制である。実際には、外国人の子供も増えているし、あまり信心深い家庭の子供、あるいは地元の人でも親が他宗教の信者である場合には、宗教(=カトリック)の授業に参加しなくてよいという自由がある。参加しない子供には、それ専用の教師が付いて、図書室等の別室にて自習等に充てられる。以前は当たり前のように行われていたカトリックの教育であるが、近年は状況が大きく状況が変わってきているように思う。

さてここでは、司教区の行う子供たちの宗教教育について、少し触れたいと思う。信心のある家庭の子供たちは、「カテキズモ Catechismo」と呼ばれるレッスンに、週一回参加することになる。小学校に上がってから通い始め、9～10歳頃の「コムニオーネ Cominione」という、宗教上の通過儀礼を目指す。習い事やスポーツ活動などに加えて、「カテキズモ」が週に一回加わってくるから、子供たちの放課後も忙しくなってくる。この教育は、神父が直接行うわけではなくて、ボランティアの父母や、年長者たちが行っているようである。カテキズモを行う場所は、教会から提供される。

写真は、聖アゴスティーノ教会の中庭で、子供たちがクリスマス準備をしていたものである。日本人の感覚ではわかりづらいかも知れないが、彼らにとって、文字通りキリストの誕生を意味する「ナターレ Natale」は、年中を通してもっとも重要な祭典である。



図 5-17 「カテキズモ」でナターレの準備をする子供たちの様子 ※筆者撮影

前項で、聖アゴスティーノの日曜 10:30 のミサには、教徒の子供たちが多く参加すると書いたが、この子供たちが、両親とともにこの時間に参加するというわけだ。カテキズモに関しては、自分がどの地区に所属しているかは関係なく、子供たちは皆そろってチッタヌオーヴァの聖アゴスティーノ教会のほうへ行くそうである。

パスクア Pasqua(復活祭)の時期には、「ラ・ヴィア・クルーチス La Via Crucis(十字架の道)」という、宗教行列を行う。子供たちがロウソクを灯し、夜にお祈りしながら歩く姿が見られる。



図 5-18 「カテキズモ」のメンバーにより作成された宗教行列のポスター